大濱信泉プロジェクト『勇気づけの教育』の推進（23）

～　地域・保護者と学校の連携協力　～

石垣市立宮良小学校　校長　東　由美子

教職に就いて三十八年、教育の目的は、人格の完成を目指し「心身ともに健康な国民の育成」に期すことを肝に銘じ、私は、児童生徒・職員のウェルビーイング（心身ともに良好な状態）を目指し取り組んできました。そして今年、児童・職員のウェルビーイングにつながる「連携協力」のある学校に赴任しました。

朝七時二十分、宮良小学校の校門周辺には、交通安全指導の方々が揃い、子供たちを出迎えます。長年立哨指導をしてくださった方から宮良老人クラブ寿会に引き継がれ、時期によっては民生員も参加し、校区内の国道では、婦人会が子供たちの安全を見守っています。子供一人一人と挨拶を交わし、子供たちの声を引き出してくれます。登校時から自分の存在が認められ、どの子も顔をあげて校門をくぐります。素敵な朝のスタートです。子供たちを地域の宝として育んでいる活動に心から感謝です。

宮良小学校は、明治二十九年五月十七日に大川尋常小学校宮良分校として創立され、統合・校名変更・校地移転・独立と歴史を刻みながら、今年百二十五年目を迎えました。

本校の歴史を振り返るとき、幾多の社会的変化を乗り越えるために、多くの方々が協働しながら学校教育を支えてきたことを痛感し、地域の学校に寄せる思いは、本校教育の土台だと心強く思います。その根底にあるのは、宮良地区を誇りに思い、そこに育つ子供たちを大切にしてきた愛情だと感じます。　読み聞かせ等を行う「まつぼっくりの会」、棒術や踊りを指導する棒保存会や踊りの師匠、婦人会など、本校の地域人材・活用リストには多くの方が並び、学校への思いの大きさを感じます。そして、本校の二大行事「川下り」「黒糖づくり」を行う総合学習は、地域・保護者との連携協力のもとで実施しています。

そして、今年も六月に総合学習「我ら探検隊」を実施することができました。各学年でテーマを持ち、六年生は第四十二回「川下り」を体験しました。テーマに合わせ、地域の有識者や保護者が講師となり、子供たちは自分の住む宮良地区の自然や歴史、文化等を学び、他教科と関連させ学びをひろげています。この学習では、講師の地域への思い、学校や子供たちへの思いも伝えられ、子供たちはそれを感じ、受け止め、自分の育っている地域、家庭への思いを深めることにつながっています。地域、

家庭という心の拠り所がしっかりとあることは、子供たちの心を良好にします。

「川下り」に係る川の掃除、筏作り、筏運搬、船頭、片付け等は、ＰＴＡ役員を中心に保護者が担ってくださるので、学校は子供たちへの指導に集中することができます。　親子での筏づくりでは、四十二年受け継がれてきた筏の組み立て方を保護者同士が確認し、協働する姿を見ながら、子供たちは手伝います。参加された保護者は、どの子も我が子のように見守り、励ましています。この学校と保護者の連携協力は、これまで培われてきたもので、保護者の多大な尽力に感謝するとともに、これからも学校教育推進の原動力になると確信しています。そして、子供たちは、「川下り」体験ができる宮良小学校六年生であることに誇りを持ち取り組んでいます。

石垣市の目指す「勇気づけの教育」の根底にあるのは、自分は大切な存在だと認識し、自分のよさや可能性に気づく自己肯定感です。本校における地域・保護者の活動は、子供たちに安心感を与え、一人一人の存在を認め、子供たちが自分は大切な存在だと気づくことにつながっていきます。

新型コロナウイルス感染症の影響で、学校教育活動の多くが制限される状況に苦慮することもありますが、これからも地域や保護者との連携協力を図りながら、子供たちの自己肯定感を高め、子供たちを勇気づけできるよう取り組んでいきます。そして、それは、児童・職員のウェルビーイングにつながるはずです。

知恵だせ　汗だせ　力だせ　豊かな心で創りだせ！　宮小っ子